

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 生徒の持てる力や可能性を最大限伸ばす「生徒が主役の学校」をめざす。
- 1 地域やグローバルな世界で「生き抜く力」の基となる確かな学力を育む。
 - 2 安全で安心な学習環境のもと、お互いを尊重し、自尊感情を育む。
 - 3 将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒を育む。
 - 4 自ら学び続ける教師集団を育む。

2 中期的目標

- 1 「生き抜く力」の基となる確かな学力を育む。
 - (1) 「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」生徒のやる気を引き出す。
 - ア ICT活用と言語活動をキーワードに、「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」で、生徒のやる気を引き出す。
 - ※ 教員の「ICTを使って授業を展開している」(H26の74%をH29には80%にする)
 - イ 少人数展開授業をはじめ、各授業や講習、補習の充実を図り、基礎基本の定着に努める。
 - ※ 生徒の「内容がわかりやすい授業が多い」(H26の61%をH29には67%にする)
 - (2) 生徒の「多様な学び」を保障する。
 - ア 生徒の多様な学びの要望に応えるカリキュラムや課外プログラムの提供に努める。
 - イ 生き抜いていく基となる資格取得を進める。
 - ウ あらゆる科目において、「考える」「発表する」参加体験型のアクティブラーニングを研究する。
 - ※ 生徒の「学校の評価は、テストの点だけでなく、生徒の努力や授業に取り組む姿勢等を含めて行われている」(H26の68%をH29には75%にする)
- 2 安全で安心な学習環境の維持と自尊感情の育成。
 - (1) 安全安心で「生徒が主役」の学校生活。
 - ア 生徒をより深く理解するために、「高校生活支援カード」「個人面談週間(4月・6月・11月)」等を活用する。
 - また、「学年会議」等で、生徒情報を共有化し、中退やいじめの防止に努める。
 - ※ 生徒の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」(H26の56%をH29には63%にする)
 - ※ 保護者の「学校は親身になって相談に応じてくれる」(H26の62%をH29には68%にする)
 - イ 部活動を通して多くの生徒に成功体験を積ませる。
 - ※ 生徒の「学校は部活動が活発になるよう取り組んでいる」(H26の54%をH29には60%にする)
 - (2) 多様な体験活動の提供と達成感で自尊感情と規範意識を高める。
 - ア 校外での活動で生徒が活躍できる場を提供する。
 - イ 基本的な生活習慣の確立。
 - ※ 生徒の「普段から遅刻しないよう心掛ける」(H26の77%をH29には83%にする)
 - ウ 生徒が学校行事を自主的に企画・運営することで達成感を味わわせる。
 - エ 地域社会や学校の一員としての自覚と責任感を持ち、愛校心及び他者を思いやる心を養う。
 - (3) 学校施設等の諸条件の整備と防災教育。
 - ア 学校施設等の諸条件の整備。
 - イ 防災教育や危機管理体制を再構築する。
- 3 将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒を育む。
 - (1) キャリア教育プランの実行。
 - ア 3年間のキャリア教育プランに基づき、1年次から進路意識の高揚を図り、生徒個々が将来の生き方をデザインする。
 - ※ 生徒の「将来の進路や生き方について考える機会がある」(H26の58%をH29には65%にする)
 - イ 1年次より外に出かけ、進路を意識する機会を提供する。
 - ウ 「学力向上のためのプロジェクトチーム」の取り組みを通して、将来を見据えて継続的に頑張ることができる生徒を育てる。
 - エ あらゆる教育活動を活用し、生徒や保護者へのきめ細やかな情報の提供を行う。
 - ※ 生徒の「先生は進路についての情報を良く知らせてくれる」(H26の59%をH29には67%にする)
 - オ 進路未決定者を減少させる。(H26の16%をH29には11%にする)
 - (2) アセスメントの活用。
 - ア 基礎教養の定着度や「個々の強み」を知るために、アセスメントを活用し、一人ひとりが持てる力を伸ばし、進路実現を図る。
 - ※ 生徒の「自分の学力の向上を実感している」(H26の49%を57%にする)
 - (3) 入学前から生き方プランを考える機会を提供する。
 - ア 本校で頑張りたいと思う生徒が入学できるように広報活動を行う。
 - イ 「スポーツフェスティバル in イズトリ」の継続実施により、様々な活躍の場があることを示す。
- 4 自ら学び続ける教師集団を育む。
 - (1) 授業改善のための学び合い。
 - ア 外部の力を活用した研修を行い、自ら学び続ける教師集団を育む。
 - ※ 教員の「研究授業を定期的実施している」(H26の30%をH29には37%とする)
 - イ 外部の研修に参加しやすい職場環境を保持し、研修で得た情報や知識を校内研修で共有し還元する。
 - ウ 授業観察及び相互の意見交換を行うことで自ら授業改善に取り組む。
 - ※ 生徒の「他の先生が授業を見学に来ることがある」(H26の69%をH29には75%とする)

<p>(2) 教員が本校生徒、学校の実情を知る。</p> <p>ア 情報交換の場を設けることで交流を促す。</p> <p>※ 教員の「若手教員と先輩教員の交流を定期的実施」(H26の56%をH29には62%とする)</p> <p>イ ミドルリーダーの自覚を促し、学校の活性化に向けての取組みを立案させる。</p> <p>※ 教員の「学校教育計画の重点目標に照らして目標を設定し教育活動を行う」(H26の54%をH29には62%とする)</p>

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[平成27年12月実施]	学校協議会からの意見
<p>学校経営計画が、どのように取り組んでいるかが分かるよう各質問項目を選び、経年変化を考察する。(生：生徒 教：教員 保：保護者) 　あてはまる%</p> <p>1 確かな学力 ○わかりやすい授業を拡充・展開する 27年 (26年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生「内容がわかりやすい授業が多い」 59% (61%) 教「授業において、生徒が理解できている手ごたえがある」 54% (54%) 保「内容がわかりやすい授業が多いようだ」 50% (52%) <p>授業は少人数、ICTの活用、参加体験型を多く取入れ、意欲がわくように工夫している。数値的には昨年度ほぼ同様である。</p> <p>2 安全安心な学校 ○生徒に寄り添う生活指導 27年 (26年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」 55% (56%) 教「教職員は生徒の意見をよく聞いている」 79% (75%) 保「学校は、親身になって相談に応じてくれる」 56% (62%) <p>生徒の回答は、4年間連続してほぼ同率である。しかし、保護者の数値が減少し、教員の思いとかなり乖離しているため、今以上の丁寧な指導が必要であろう。なお、今年度も懇談会や「支援カード」等を活用しながら昨年通りの対応はしている。</p> <p>3 将来の生き方デザイン ○1年からの系統的なキャリア教育 27年 (26年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生「1年の頃から進路に関心を持てる授業が行われている」 48% (53%) 教「学校は1年からキャリア教育の目標を設定し、実践している」 64% (56%) 保「懇談等で1年時から進路に関して具体的に先生と話をしている」 50% (58%) <p>1年からのキャリア教育については、教員間での情報共有を心掛けるとともに対応は丁寧に行っている。3年生については、その結果を大いに残しているが、生徒、保護者には具体的には伝わっていないと思われる。</p> <p>4 教員の育成(資質向上) ○校内教員研修の充実 27年 (26年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生「他の先生が授業を見学にくることがある」 70% (69%) 教「研究授業を定期的実施している」 35% (30%) 保「学校は、保護者が授業を参観する機会をよく設けている」 57% (60%) <p>教員は授業力の向上をめざして、お互いに授業を見る機会が増えている。また、教員間の意見交換や交流も活発になってきていると思われる。</p>	<p>第1回(6/26)</p> <ol style="list-style-type: none"> 本校の概要 ・各分掌、委員会からの報告・説明 学校経営計画について <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力をつけ、規範意識を高めるとともに昨年以上に進学、就職者を増やし、進路未決定者を減少させる。 協議会委員からの意見 <ul style="list-style-type: none"> 進路については、基礎的な力を付けて行く必要があると思う。そのためには、「自ら学び続ける教員集団」を重視してほしい。 挨拶や異世代との会話は大切である。乗車マナーもよくなっている。 18歳で選挙権を持つということで、社会を知るような機会がほしい。 <p>第2回(11/6)</p> <ol style="list-style-type: none"> 近況説明 ・校長からの現状報告 部活動見学・分掌等の報告 <ul style="list-style-type: none"> 文化部(ダンス、茶道、軽音楽、吹奏楽、書道、美術)を中心に活動を見学する。 進学は指定校推薦が中心。就職一次内定率72~73%とともに好調である。 平成28年度入試及びアドミッションポリシーの説明をする。 協議会委員からの意見 <ul style="list-style-type: none"> 統一テスト等により知育偏重の教育となっているのではないかとと思われるが、制度の変更等をプラスにとらえてほしい。 制度に振り回されるのではなく地道な継続が大切である。 社会に出て信頼できるような人間を育ててほしい。 学校は若い先生が多く活気があり、面倒見の良い学校であることをもっとアピールすべきである。 <p>第3回(2/12)</p> <ol style="list-style-type: none"> 本年度の進路等の状況報告 平成27年度授業アンケート結果及び学校教育自己診断の分析について平成27・28年度学校経営計画について 協議会委員からの意見 <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断から <ul style="list-style-type: none"> 若手、先輩教員との交流を大切にしてほしい。 保護者との意思の疎通も課題で、きめ細やかな情報提供が必要である。 平成28年度学校経営計画に若手、先輩教員との交流を記載してほしい。 キャリア教育プランとして進学者向け講習会を組織立てればどうか。 生徒の動線に合わせた進路指導室の充実を図り、調べ学習ができるなど学校施設等を整備してほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「生き抜く力」の基となる確かな学力を育む	<p>(1) 「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」生徒のやる気を引き出す。</p> <p>(2) 生徒の「多様な学び」を保障する。</p>	<p>(1) ア 「学校経営推進費」事業等を活用し「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」を味わえる新しい授業法を学力向上PT等において研究する。</p> <p>イ 各授業や講習、補習の充実を図りながら、基礎基本の定着に努める。</p> <p>(2) ア 基礎学力、教養を身に付けさせる。</p> <p>イ 担任、学年団等で英検等の資格試験を推奨する。</p> <p>ウ 授業規律を大切に「考える」「発表する」参加体験型のアクティブラーニングを研究する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断 <ul style="list-style-type: none"> (1) -ア 教員の「ICTを使って授業を展開している」77%以上(H26 74%) (1) -イ 生徒の「内容がわかりやすい授業が多い」64%以上(H26 61%) (2) -ア 総合的な学習の時間にワークブックを活用して基礎基本の時間数の増加 (2) -イ 英検の受検者の3名増加(H26 25名) (2) -ウ 生徒の「学校の評価は、テストの点だけでなく、生徒の努力や授業に取り組む姿勢等を含めて行われている」71%以上(H26 68%) 	<p>(1) -ア ICTを活用した授業は昨年度の74%から75%と同様でほぼ目標を達成している。(△)</p> <p>(1) -イ 昨年同様、学年が下がるに従い低下し、全体では61%から59%となった。(△)</p> <p>(2) -ア 生徒の総合学習は進路に結びついているが55%から54%とほぼ同率だった。ワークブックの活用回数は増加している。(○)</p> <p>(2) -イ 受験者は21名と減少した。(△)</p> <p>(2) -ウ 生徒の診断は70%。教員は授業規律を大切にしながら授業を充実させた。(○)</p>

<p>2</p> <p>安全で安心な学習環境と自尊感情の育成</p>	<p>(1) 安全安心で「生徒が主役」の学校生活。</p> <p>(2) 多様な体験活動の提供と達成感で自尊感情と規範意識を高める。</p> <p>(3) 学校施設等の諸条件の整備と防災教育。</p>	<p>(1) ア 新入生に「高校生活支援カード」を「個人面談週間」等(4月・6月・11月)で活用しながら、生徒理解を深める。また、保護者との連携を密にする。</p> <p>イ 新入生に「部活動体験」を工夫する等、部活動加入率の向上を図る。</p> <p>(2) ア 年間を通してインターンシップや体験活動、ボランティア等への積極的な参加を推進する。</p> <p>イ 生徒への声掛けを励行し規範意識を高めることにより、遅刻者数を減らす。</p> <p>ウ 学校行事で生徒が前面に立った運営を行う。</p> <p>エ 「乗車マナーキャンペーン」「地域清掃」「農園活動」等の継続実施で地域とのつながりを密にする。</p> <p>(3) ア 学校施設等の諸条件を整備する。昨年度に引き続き、施設の点検、改修等を行う。</p> <p>イ 災害等に備える知識と対応する力を生徒が身に付けるための防災教育に取り組む。</p>	<p>・学校教育自己診断</p> <p>(1) -ア 生徒の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」60%以上 (H26 56%)、保護者の「学校は親身になって相談に応じてくれる」65%以上 (H26 62%)</p> <p>(1) -イ 新入生の部活動加入率の3%増加 (H26 29%)</p> <p>生徒の「学校は部活動が活発になるよう取り組んでいる」57%以上 (H26 54%)</p> <p>(2) -ア インターンシップや体験活動等に100人以上の生徒が参加 (H26 85名)</p> <p>(2) -イ 生徒の「普段から遅刻しないよう心掛ける」80%以上 (H26 77%)、遅刻者数の10%減少 (H26.12 8,879名)</p> <p>(2) -ウ 行事運営に160人以上の生徒が関与 (スポーツフェスティバルで67名)</p> <p>(2) -エ 各種事業を継続し参加人数の増加</p> <p>(3) -ア 施設の未改修箇所の減及び迅速な対応</p> <p>(3) -イ 防災について学習する機会を年1回提供</p>	<p>(1) -ア 本年度も「高校生活支援カード」や懇談会、ケース会議等を実施している。昨年度56%が55%とほぼ同率だったが、保護者が62%から56%に低下した。(△)</p> <p>(1) -イ 昨年度同様に取組み加入率は33%となった。(○)</p> <p>生徒の診断は54%から51%に低下した。(△)</p> <p>(2) -ア インターンシップや体験活動等には54名、生徒会を除くボランティアには63名以上が参加した。(○)</p> <p>(2) -イ 生徒の意識は78%と上昇しているが、遅刻者数は9,008名と増加した。(△)</p> <p>(2) -ウ・エ 昨年通りの行事の運営に参加・継続した。(△)</p> <p>(3) -ア 漏水点検し補修工事を始めた。また、施設の改善に向け整備を進めている。(○)</p> <p>(3) -イ 実施できた。(○)</p>
<p>3</p> <p>将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒を育む</p>	<p>(1) キャリア教育プランの実行。</p> <p>(2) アセスメントの活用。</p> <p>(3) 入学前から生き方プランを考える機会を提供する。</p>	<p>(1) ア 1年次より系統立てて、生徒個々が将来の生き方を考える機会を与える。</p> <p>イ 1年次より大学見学、インターンシップ、職場見学等への参加を促す。</p> <p>ウ 「学力向上のためのプロジェクトチーム」の討議等を踏まえ、進路意識の高い生徒の学習の場を保障する。また、「大学生による勉強会」の継続実施。</p> <p>エ 「進路だより」等を継続して、生徒や保護者への情報の提供を行う。</p> <p>オ 粘り強い指導を続け進路未決定者を減少させる。</p> <p>(2) ア アセスメントの結果を用いた個人面談を実施することにより、生徒は自分の基礎教養の定着度や「個々の弱み、強み」を知る。また、教員は進路ガイダンスに活用する。</p> <p>(3) ア 将来の生き方をデザインし、本校で頑張りたい、と思う生徒が入学できるように広報活動の諸条件を整備する。</p> <p>イ 「スポーツフェスティバル in イズトリ」の充実を図る。</p>	<p>(1) -ア 生徒の「将来の進路や生き方について考える機会がある」61%以上 (H26 58%)</p> <p>(1) -イ 生徒の参加人数の増加(前出)</p> <p>(1) -ウ 高等看護学校合格生徒が1名以上 (H26 1名) また、勉強会のべ参加人数150人以上</p> <p>(1) -エ 生徒の「先生は進路についての情報を良く知らせてくれる」62%以上 (H26 59%)</p> <p>(1) -オ 進路未決定者率を3%減少 (H26 16%)</p> <p>(2) -ア 生徒の「自分の学力の向上を実感している」52%以上 (H26 49%)</p> <p>(3) -ア オープンキャンパス参加者数の3%増加 (H26 192名)</p> <p>(3) -イ スポーツフェスティバルの参加中学生数の3%増加 (H26 266名)</p>	<p>(1) -ア 「将来の進路や生き方について考える機会がある」は57%でほぼ同率であった。(△)</p> <p>(1) -イ (○)</p> <p>(1) -ウ 看護系講習会ははじめ毎学期の学力向上PT試験前勉強会などを開催した。(△)</p> <p>(1) -エ 「進路だより」の発行等、情報は積極的に提供し、生徒59%から61%に増加した。(○)</p> <p>(1) -オ 3%は減少した。(○)</p> <p>(2) -ア 昨年度より進学91名・就職116名と数、率ともに向上したが、生徒に自信をつけさせることができず48%とほぼ同率だった。(△)</p> <p>(3) -ア 参加者は178名であったが、新しくクラブ体験等を導入し工夫した。(○)</p> <p>(3) -イ スポーツフェスティバルはバスケットボール12中学校263名、陸上3中学校57名、テニス3中学校33名の計353名で33%以上の増加となった。(○)</p>
<p>4</p> <p>自ら学び続ける教師集団を育む</p>	<p>(1) 授業改善のための学び合い。</p> <p>(2) 教員が本校生徒、学校の実情を知る。</p>	<p>(1) ア パッケージ研修や10年経験者研修等を活用した教科横断的な研修で、その成果を共有する。</p> <p>イ 校外研修で得た情報や知識を職会等で、報告する機会を設けその成果を共有する。</p> <p>ウ 授業見学の機会を増やすことにより、自己の授業改善に活かす。</p> <p>(2) ア 若手教員と先輩教員との情報交換をする場を定期的に設ける。</p> <p>イ 「学力向上のためのプロジェクトチーム」の提言を取り入れていく。</p>	<p>(1) -ア 教員の「研究授業を定期的実施している」33%以上 (H26 30%)</p> <p>(1) -イ 学期ごとに1名以上が職会で報告</p> <p>(1) -ウ 生徒の「他の先生が授業を見学に来ることがある」72%以上 (H26 69%)</p> <p>(2) -ア 教員の「若手教員と先輩教員の交流を定期的実施」60%以上 (H26 56%)</p> <p>(2) -イ 教員の「学校教育計画の重点目標に照らして目標を設定し教育活動を行う」58%以上 (H26 54%)</p>	<p>(1) -ア 「研究授業を定期的実施している」が35%に増加した。(○)</p> <p>(1) -イ 1学期は実施したが2学期以降できなかった。(△)</p> <p>(1) -ウ 授業見学期間をつくるなど機会増に努め、他の先生の授業を見学し授業力向上をめざしている。69%が70%となった。(○)</p> <p>(2) -ア 教員の交流は60%に増加した。(○)</p> <p>(2) -イ 教員自らが目標を設定し教育活動を行うは64%に増加した。(○)</p>